

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：22101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11062

研究課題名(和文) 助産学生が「不妊女性への支援」の実践能力を獲得するためのeラーニング教材の開発

研究課題名(英文) Development of e-learning materials for midwifery students to acquire practical skills in "support for infertile women"

研究代表者

長岡 由紀子 (NAGAOKA, Yukiko)

茨城県立医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：80315762

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、助産師基礎教育課程の学生が「不妊女性への支援」の実践能力を獲得するためのeラーニング教材の開発を目的とした。eラーニングのコンテンツの抽出には、全国の助産師養成校の電子シラバス、助産師国家試験出題基準、助産師基礎教育のテキストを参考にした。eラーニングサイトは、大カテゴリ(単元)と小カテゴリ(各授業コンテンツ)で構成した。各授業コンテンツには、パワーポイントやPDF資料、動画教材等を配置した。今後は、必要時、授業コンテンツの微修正を行い、学生を対象とした評価研究を実施する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

助産師には女性の生涯にわたる健康を支える専門職として幅広い専門的知識と高い実践能力が求められている。日本ではカップルの5.5組に1組が不妊であり、助産学生には「不妊の悩みを持つ女性と家族への支援：知識としてわかる」というレベルが期待されている。しかし助産学教育のカリキュラムは過密であり、不妊女性への支援に関する学習に十分な時間を割けないという現状がある。eラーニングは、時間や場所を問わず、反復して学習できるため、有用性が認識されている。助産師学生が、本研究のeラーニング教材を積極的に活用し、不妊に関する知識を身につけることができれば、実践に反映できる点で、研究の成果は社会的意義が大きい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop e-learning materials to help students in the basic midwifery education course acquire practical skills in "support for infertile women." The e-learning content was extracted from the electronic syllabus of midwifery training courses nationwide, the national midwifery examination question criteria, and the textbook of basic midwifery education. The e-learning site was organized into large categories (units) and small categories (each class content). PowerPoints, PDF documents, video materials, etc. were placed in each lesson content. In the future, after making minor modifications to the lesson contents, we will conduct an evaluation study with students.

Translated with DeepL.com (free version)

研究分野：助産学

キーワード：eラーニング 不妊女性 助産師学生 実践能力

1. 研究開始当初の背景

助産師には女性の生涯にわたる健康を支える専門職として幅広い専門的知識と高い実践能力が求められており、助産学生が卒業時まで獲得すべき実践能力(厚労省,2011)が明確にされている。我が国ではカップルの6組に1組が不妊であり、将来不妊に悩む可能性のある思春期の男女、特有のニーズを要する不妊治療後の妊産婦など不妊に関する支援を必要とする対象は多岐にわたることが先行研究で明らかにされている。そのため、助産学生の「不妊の悩みを持つ女性と家族への支援」に関する実践能力は「知識としてわかる」レベルが求められているが、能力獲得のために必要な教育内容や方法は各教育機関に委ねられており、実態は明らかでない。

現在、不妊看護の専門家として約150名の不妊症看護認定看護師が活躍しているが、不妊医療機関が全国に約600施設あるのに対し充足しているとはいえない。不妊への支援は「健やか親子21(第2次)」の重点課題の1つであることから「不妊女性と家族への支援」は今後、助産師に委ねられる機会が増加することが推察される。

一方、看護職の臨床実践能力の獲得に関しては、教育分野では様々な教育手法や教材の開発がなされ、eラーニングもその一つであり、活用することでの学習効果が評価されている。

このような背景を踏まえ、助産学生に必要とされる「不妊女性と家族への支援」に関する実践能力の獲得のためには、教育の実態を明らかにし、効果的な学習教材であるeラーニングを活用した教育プログラムを構築することが急務と考えた。

2. 研究の目的

助産学生が卒業時に獲得すべき能力のうち、「不妊の悩みを持つ女性と家族に対する支援(以下、不妊女性と家族への支援)」に関する助産師教育機関の教育実態を明らかにしたうえで、教育プログラムを開発し、過密なスケジュールで助産を学ぶ学生への、より効果的な学習支援のためのeラーニング教材を作成することである。

3. 研究の方法

研究1:「不妊女性と家族への支援」に関する助産学教育の実態を明らかにする

助産学基礎教育養成機関における「不妊女性と家族への支援」に関する教育方法や教育内容を明らかにする目的で、助産師養成校の電子シラバスを閲覧し、「不妊」に関する内容が含まれる「授業科目名」「学習の到達目標」「授業内容」等の抽出を行い、教育内容の実態を把握する。

研究2:教育プログラム案の開発

既存の資料(助産師国家試験出題基準、国家試験問題、助産学テキスト等)を参考に、不妊に関する教育プログラム案を作成する。

研究3:eラーニング教材の作成

助産学生の自己学習向け教材として活用できるeラーニングシステムを、専門家のアドバイスを受けながら作成する。

4．研究成果

研究1

161の助産師養成校の2019年度の電子シラバスの記載内容からカリキュラム分析を行った。大学専攻科(26校)の場合、不妊に関連する科目は1~4科目、授業時間は1~11時間と養成校によって幅があった。科目分野は、医学系、助産学系、リプロダクティブヘルス/ウイメンズヘルス系、倫理学系、社会心理学系と多岐に渡っていた。なお、当初この研究は実態調査を予定していたが、Covid19の感染拡大と2022年度カリキュラム改正が行われたことから、調査は見合わせて、シラバス分析から得られた結果を以降の研究の基礎データとして用いた。

研究2

教育プログラム案は、研究1の成果、助産師国家試験問題や出題基準、助産師基礎教育テキストの記載内容などの既存資料と不妊の専門家や助産師教員の意見を参考に、最終的な授業コンテンツを抽出した。プログラムの構成は【不妊の定義、概念】【不妊カップルへの支援】【不妊治療後の妊産婦への支援】【生殖医療の倫理的課題】【不妊相談・カウンセリング】【不妊の予防】【不妊に関する社会資源・制度】等とした。

eラーニングは学生が助産師国家試験に向けて自己学習を行う際に用いるものとした。また、より有用な活用方法を検討するために、eラーニングをはじめ、様々なデジタル教材を看護教育に導入するなど、先駆的な取り組みを行っているオーストラリアの大学を訪問し、看護教員や研究者と意見交換を行い参考にした。

研究3

eラーニングサイトの構築は、専門業者の汎用eラーニングシステムを借用し、大カテゴリ(単元)と小カテゴリ(各授業コンテンツ)で構成した。各授業コンテンツには、パワーポイントやPDF資料、動画教材等を配置した。学習管理機能としては、閲覧後の確認テストやレポート提出を可能にした。さらに利用者の利便性を鑑みて、PCやスマートフォンで閲覧できるようにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 長岡由紀子、真田育依、加納尚美	4. 巻 25
2. 論文標題 米国・ロサンゼルスにおける多職種連携・協働に関する研修報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 茨城県立医療大学紀要	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 長岡由紀子、清水清美
2. 発表標題 助産師基礎教育課程における不妊教育に関するwebシラバス記載内容の分析
3. 学会等名 日本生殖医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長岡由紀子、西出弘美、山中清子、島田智織
2. 発表標題 COVID19禍におけるハイリスク学内実習の取り組み MFICU・NICUでの臨地実習を学内実習に代替して
3. 学会等名 日本母性衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山中清子、長岡由紀子、西出弘美、島田智織
2. 発表標題 コロナ禍におけるオンライン授業の展開、助産学実習に至る取り組み
3. 学会等名 第39回茨城県母性衛生学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島田智織, 長岡由紀子, 西出弘美, 山中清子
2. 発表標題 茨城県立医療大学助産学専攻科における多職種連携教育の実践 第1報
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西出弘美, 長岡由紀子, 山中清子, 島田智織
2. 発表標題 助産学生が実習中に困難と感じた助産診断の分析
3. 学会等名 第61回日本母性衛生学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西出 弘美 (NISHIDE Hiromi) (30615472)	茨城県立医療大学・保健医療学部・助教 (22101)	
研究分担者	島田 智織 (SHIMADA Ciori) (90347245)	茨城県立医療大学・保健医療学部・教授 (22101)	
研究分担者	清水 清美 (SHIMIZU Kiyomi) (70323673)	城西国際大学・看護学部・教授 (32519)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------